

# 月曜会・公明党 ゴミ処理施設視察報告書

月曜会 村岡 栄 紀

浅田 康 子

宮崎 春 貴

中川 正 則

公明党 岡崎 義 樹

副議長 岩崎 貞 典

議 長 村 井 公 平

○視察実施日

平成29年1月25日 (水)

○視察先

9:30～11:30

施設名：南但ごみ処理施設（南但クリーンセンター）

住所：朝来市和田山町高田 817-1

事業主体：南但広域行政事務組合（養父市・朝来市）

13:30～16:00

施設名：クリーンパーク北但

住所：豊岡市竹野町坊岡 943 番地

事業主体：北但行政事務組合（豊岡市・香美町・新温泉町）

## 南但ごみ処理施設（南但クリーンセンター）

### [施設概要]

敷地面積：31,000 m<sup>2</sup>

竣工：平成25年7月

構造・延べ床面積：●高効率原燃料回収施設

鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）地上4階地下1階  
4517.96 m<sup>2</sup>

●リサイクルセンター

鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）地上3階地下1階  
3360.53 m<sup>2</sup>

全体事業費：72億円

### [高効率原燃料回収施設]

■バイオマス設備：可燃ごみからバイオガスを回収し、発電用燃料として利用し、CO<sub>2</sub>排出量を低減。36トン/日×1系列(24時間運転)

■熱回収設備：43トン/日×1系列(24時間運転)

焼却炉形式：全連続燃焼型焼却炉（ストーカ炉）×1系統(24時間)

### [リサイクルセンター]

■施設規模：17トン/日(5時間運転)

## クリーンパーク北但

### [施設概要]

敷地面積：約33.6ha（建設用地2.6ha）

竣工：平成28年7月

全体事業費：211億円

### [施設規模]

■クリーンセンター 71トン/日・炉×2炉（24時間運転）

焼却炉形式：全連続燃焼型焼却炉（ストーカ炉）

■発電設備 蒸気タービン発電機（2850kw）

■リサイクルセンター 19トン/日(5時間運転)

■避難拠点 災害時の避難拠点として、周辺住民を受け入れる避難スペースと災害備蓄品を確保している。（主に2階部分）

■周辺山林を所有し、環境を保全・再生し自然との共存・共生の場を提供している。

## (所感)

村岡栄紀

### 【南但クリーンセンター】

南但ごみ処理施設整備事業に係る主な経過に関しては、施設建設の候補地に関しては早く決定したようですが、可燃ごみの処理方法を「ストーカ方式+バイオマス」とすることに決まるまでに5年の歳月を費やしたようです。担当者によれば、じっくりと時間をかけて熟考しながら「方式」を決めることが重要ポイントであるということなのですが、現在の西脇市、多可郡に関しては、当然、方式決定に関しては熟考しなければならないと考えますが、今後の計画から鑑みて、これから5年もかける時間的余裕はなく、決定を急がなければならないと考えます。(当然、理事者においては、方式決定に向けて既に様々な調査をしていると思いますが。)

「ストーカ方式+バイオマス」選定理由として、処理能力の小さい規模でも、バイオマスを燃料とする発電が可能になる点。燃えやすいごみと燃えにくいごみを分けて処理することができるので、ごみの資源化、減量化が進めやすくなる点。生ごみ、紙類などをガス化させることにより、焼却するごみの量を削減できる点。高効率原燃料回収施設とすることで、交付金の交付率(3分の1⇒2分の1)が高くなり、財政負担が軽減される点などがあげられます。

「ストーカ方式+バイオマス」の利点として、選別残渣、発酵残渣を焼却処理できる点。プラント排水、生活排水を処理した後、焼却施設で再利用することにより、クローズドシステムとすることができる点。前処理設備、残渣脱水設備等からの臭気を焼却炉に吹き込んで燃焼脱臭することができる点などがあげられます。

南但クリーンセンターの熱回収設備は処理能力が43t/日のストーカ炉が1炉です。2炉にしなかった理由としては、コスト的に高くなるということと、2炉にして21.5t/日ずつにすると燃焼が安定しないといった理由からだということです。またバイオマス設備(メタン発酵設備)の処理能力は36t/日であり実質の発行能力は24t/日ということで、メタンガスにより電力を発電させています。

### 【クリーンパーク北但】

「クリーンパーク北但」を管理する北但行政事務組合は豊岡市と香美町、新温泉町の1市2町で構成されており、各自治体の合計面積は130,765㎡、合計人口は116,056人(平成29年1月1日現在)と、西脇市、多可町のほうが圧倒的に面積が狭く、人口も少なくなっています。施設建設に関しては非常に困難を極めたようで、反対運動により最初の候補地は頓挫しています。

焼却処理は南但と同じく「ストーカ方式」を採用しています。選定にあたっては焼却処理ではストーカ以外に流動床方式（現在、みどり園ではこの方式を採用しています）、メタン発酵（南但クリーンセンターで採用）、炭化、飼料化、堆肥化などが検討されたようですが、最終的にはストーカ方式が採用されています。選定理由としては、「環境保全・公害防止対策」「确实・安全・安定的な処理」「資源化」「周辺環境との調和」「住民からの信頼」「経済性」などを考慮したということです。

流動床方式にしなかった理由としては、流動床方式は、瞬時に乾燥・燃焼を行うため、ごみ質の影響を受けやすく、安定燃焼が困難等の理由により近年で導入実績が少ないという回答でした。

また、ボイラーにより回収された熱は、蒸気に変えられ、蒸気タービン発電機で発電に利用されています。計画段階ではメタン発酵も候補にあがり、研究をされたそうですが、142t/日という大きな量を、確実に処理できる方式を選んだということです。

#### 【視察を振り返って】

昨年の夏に、ストーカ方式と溶融炉を採用している「エコパーク阿南」、溶融炉のみの「香川県東部溶融クリーンセンター」、そして今回、ストーカ方式とバイオマス（メタン発酵）を採用している「南但クリーンセンター」、ストーカ方式と蒸気タービン発電機を採用している「クリーンパーク北但」を視察しました。

まず、現在「みどり園」においては、流動床方式を採用していますが、安定燃焼が困難なことや、近年の導入実績がないということで、この方式はすでに時代遅れの様相を呈しているのではないかと考えられます。

次に、溶融炉に関しては、かつては溶融しないと交付金がもらえないことになっていた時期があり、溶融施設を持っていない小さな自治体などは、交付金をもらうために県の溶融施設に持ち込んでいたようです。そして、そこでできた灰をリサイクルしてセメント工場へ持ち込むように、県が指導していたということで、非常に優れた方式であり、最終処分場の大幅な延命化などが実現できるのですが、コストが相当高いということ。また、西脇市、多可町のような年間処理量のそんなに大きくないところよりも、年間処理量の大きいところにとって、より有効なのではないのだろうか、そんなふうにも考えます。西脇市、多可町のごみの量に対して、この方式が、ストーカ方式よりもどれくらい有効なのか、コストをかけてでも採用する価値があるのかというところが論点になると考えます。

ストーカ方式に関しては、コスト面では溶融炉よりもローコストであり、非

常に安定感があり採用している自治体も多いようです。それと発電のことを考えるならば、西脇市、多可町の場合は、クリーンパーク北但が採用しているタービンによる発電は、ごみの量的に困難だと思うので、現実的には小さな規模でも発電が可能なバイオマス（メタン酵素）との併用「ストーカ方式＋バイオマス」が最も現実的であるように感じます。この方式を採用している自治体は山口県防府市のほかに、京都府京都市、東京都町田市、京都府宮津与謝などが建築中またはこれから建築予定と聞きます。

最後に、視察をした施設は、すべて電力など再生可能エネルギーを生み出すシステムが付随して備わっていましたが、現在のみどり園にはそのようなシステムはありません。ただし、西脇市羽安町に太陽光発電施設が建設されています。当然、西脇市、多可町の将来を考えると、新施設には再生可能エネルギーを生み出すシステムは必要不可欠だと私は考えますが、コストの面や費用対効果、また、ごみの量を減らしてリサイクル率を上げる取組などとの整合性をしっかりと熟考して、地域にとってベストな選択をされることを望みます。

浅 田 康 子

平成28年8月18日から19日にかけて、徳島県・エコパーク阿南、香川県・香川県東部溶融クリーンセンターの2箇所へ、溶融処理の施設を視察に行ってきました。

将来的なごみ処理の方向性としては、スラグやメタルの再資源化も可能であり、これからの処理方式は高効率ごみ発電施設が有効ではないかと感じていました。

徳島県と香川県への視察の所感は提出済みですので、詳しくは触れませんが、今回、南但クリーンセンターとクリーンパーク北但を視察し、前回視察した施設と比較することが出来ました。

以下、南但クリーンセンターは（南但）、クリーンパーク北但は（北但）とします。

南但が処理を受け持つ自治体は養父市と朝来市で人口は両市で56,000人余りです。西脇市と多可郡の人口は、平成29年1月現在で63,000人余りなので、構成自治体としては視察先の中では、一番にかよったところです。

南但で、まず驚いたのは焼却設備が1系列（1基）で24時間運転をしていることでした。ほとんどの所が、2基・3基で運転していましたので、理由を尋ねると、一つは、財政面で1基にしたこと。2つ目は2基にして燃やすごみの量が少ないと燃焼が安定しない、ということでした。点検や修理が必要なときは、

運転を止めることとなるが、その分、ごみピットの容量を大きくする事で対応が可能となります。

2基以上が当たり前とと思っていましたが、一基でも運転は可能です。

北但は、豊岡市、香美町、新温泉町の116,000人余りのごみ処理を担っています。

36.6haの広大な敷地に、平成28年7月に竣工された施設は、新築の香りがするほどでした。施設内には、プラットホーム・ごみピット見学者ホール、炉室見学者ホール、蒸気タービン発電機見学者ホール、多目的工房、エントランスホール、里山学習コーナー、環境学習コーナー、大会議室、見学者ホール、などが十分の広さで設備されていましたが、西脇・多可を考えると、コンパクトにするべきところも多々あると感じました。

現在、西脇の処理は連続燃焼式焼却炉（流動床方式）で運用されています、流動床方式は瞬時に乾燥・燃焼を行うため、ごみ質の影響を受けやすく、安定した燃焼が困難等の理由により近年では導入される実績が少なくなっているとのこと。

新たに設備をする西脇・多可において、燃焼方式にはそれぞれ特徴があり、それを議論する事も大事なことです。施設を市民にどのように開放し、また利用しやすくしていくかなどを検討する必要があると思います。

ゴミやリサイクルのことを学習する会議室や、講座が出来る会議室があり市民が利用出来る施設であることが市民への開放であると考えます。

もうひとつには、いつ起こるか分からない未曾有の災害に対応できる備蓄の確保や、避難所としての機能が整っていることも、今からの施設の役目として重要だと考えます。

今後ますます、リサイクル率を高めて、ごみの減量化や資源化を進めていく必要があります。また、ボイラーで発生する蒸気を利用して発電をし、余った電気を売電する方法も有効かと思えます。

これからの環境対策としては、ばいじん、塩化水素、二酸化窒素などの法規制値も厳しくなってくると考えられます。中でも、平成30年から対応していく事になる水銀への対策や周知は重要になってくると考えます。（1日一本の体温計が混ざると、水銀の水準値をオーバーすると予測されています）

毎日の暮らしの中で欠かせないごみ処理施設は、市民にとって、安心・安全であることはもちろん、市民の快適な生活環境と美しい自然環境を守り、ごみを効率よく処理していく施設が望ましいと思えます。

## 宮 崎 春 貴

### 南但クリーンセンター

南但クリーンセンターは養父市・朝来市で構成されていて、人口は56,259人となっている。西脇市・多可町では63,296人となり、少し多いが同じような規模の人口構成となっている。施設の概要としては、処理能力が1日43tのストーカ炉が1系列で24時間運転となっている。炉が1系列だけなので故障、修理の場合に備えて、2週間分以上のごみをためておくごみピットを整備し対応している。また高効率原燃料回収施設としては、可燃ごみを分別し、生ごみ、紙類などからバイオガスを回収するバイオマス施設（メタン発酵施設）を取り入れている。処理能力は1日36tで24時間運転となっている。発生したメタンはガスエンジン発電機（ドイツ製）191kW2基により発電し、電気の固定買取制度を利用して売電している。バイオマスと焼却方式を選定した理由として、南但地域の施設規模でもバイオガスでは発電が出来るが、蒸気タービン発電機での発電は出来ないとのこと。燃えやすいごみと燃えにくいごみを分けて処理するため、資源化、減量化が進められる。生ごみ、紙類などをガス化することにより焼却するごみの量を削減することが出来る。また高効率原燃料回収施設とすることにより、交付金の交付率が高くなる等が考えられる。

問題点として、バイオガス化にする前に機械選別をしなければならないこの時点でのトラブルはないのか、発酵残渣を焼却した場合水分の関係でトラブルはないのか、等考えられる。しかしながら南但クリーンセンターでは平成25年より稼働し発電量としては安定して、1t当たり約280kwの発電を行っている。

### クリーンパーク北但

クリーンパーク北但は、豊岡市・香美町・新温泉町の1市2町人口113490人で構成されている。施設の概要は処理能力1日71tのストーカ炉が、2炉（24時間運転）となっており余熱を利用した蒸気タービン発電機（2850kw）を備えている。環境保全、公害防止対策、確実・安全・安定的な処理、資源化等重視、流動床式は瞬時に乾燥・燃焼を行うために、ごみの質の影響を受けやすく安定燃焼が困難等の理由があるため焼却方式をストーカ式に決定している。施設等の耐久年数は30年以上を考え各設備機器の補修・更新が同一年度にならないように年次計画を策定している。環境対策においては要求水準書よりもさらに厳しい自主保障値を設定し、自主保障値を超えると予測される

場合、又は超える場合は、施設の稼働を速やかに停止することとしている。中でも水銀の項目があり、体温計が1本でも入っていれば自主保障値が越えることになって運転を停止しなければならないとのことであった。広報はしているが100%とはいかないようである。施設建設費は約98億円で循環型社会形成推進交付金が32億2,087万9千円（高効率ごみ発電施設）となっている。

これまでごみ処理において、熔融炉 ストーカ炉 流動床炉の各方式を視察してきた。現在、日本の焼却施設はストーカ式・流動床式・回転炉式・一体方式・分離方式等に分類されている。中でもストーカ炉は施設数で約7割をしめており理由としては、安定燃焼しやすく、汎用性が高いのが特徴となっている、又技術的にも安定しているのではないかと思う。今後西脇市と多可町で設立される新しい焼却施設においても方式について十分に検討されることを願います。今回視察した施設では計画されてから稼働するまで10年単位の日数がかかっています。新施設が時間的にも計画通り進むことを期待するものです。

中 川 正 則

南但クリーンセンター

平成27年ゴミ搬入量14,366トンのうち発酵槽へ6,175トン、焼却量は12,760トンの処理がなされている。

1. バイオガス回収量は年間1,162,092 $m^3$ （1日当たり3,184 $m^3$ ）ガスを利用した発電量は年間に1,773,876Kwhで投入量1トン当たり287Kwh。売電価格は20年間1Kwhあたり39円（税抜き）と高額で売電、センターの維持管理費に充当し、年間コストの削減を図っている。ガスを取り出した残さにはおいが少なく燃焼しやすいため炉で燃焼させ熱回収にも役立っている。生ゴミ・紙おむつ・水分を含んだ紙など燃焼に適さないものが有効に利用されている。

2. ストーカ炉、熱回収設備

二市合わせた人口は56,259と西脇多可より少し少なめではあるが、焼却炉を1系列のみで運転されている。炉のメンテナンス・修理等で稼働できない日数は長くても約2週間とし、日数分の量をピットに貯留できるだけの容積を確保してある。炉が一台のみというのは不安に思うが集荷された中からバイオガスと炉とに機械分別・手分別でいったん振り分けることにより炉への負担が軽減されている。炉の数を1つにできれば工事費、メンテナンスも経費の削減に繋がる。施設の規模と高効率原燃料回収施設での運用に参考となると考える。



## クリーンパーク北但

1、1市2町の人口はおよそ130,000人の規模は大きすぎて比較にならないが、焼却炉設置までの経緯が非常に困難であったと聞く、ストーカ方式の炉による焼却は71t×2炉が24時間運転できる施設であり、規模が大きいだけに設置する地域への影響を考えるとなかなか理解が得にくいと思う。敷地を購入するに当たり33,6haにも及ぶ山林は本当に必要なのか疑問に思うが地域の環境と所有者の了解を得るためには仕方がないという判断をされている。

2、環境対策に関して、地元との約束として要求水準書よりも厳しい自主保証値を設定され、保証値を超えると予想される場合、又は超えるときは、施設の稼働を速やかに停止し、その旨を運営委員会に報告し、対策を講じ、安全を確認したうえで再稼働するとされている。設定の中で水銀の保証値0,05mg/m<sup>3</sup>Nは体温計1本で数値をオーバーし停止せざるを得ない。

一日142トンの焼却は安定した燃焼で熱量を維持できることから、水蒸気タービンの発電機により、年間約1億5000万の売電収入を得ている。

3、2階部分を災害時の避難所として建設、350名を対象にした資材、食糧、電気、風呂、居室が利用可能になっている。

香川県での熔融炉方式は、最終処分を合理的に解決するかもしれないが燃焼温度の高さから炉への負担、耐久性に不安がある。近年新しく建設された両施設は少ないごみは1基、多い所は2基の焼却炉で24時間安定した燃焼を心がけておられる。安定した燃焼を得ることで電気やガスを生産することが出来る。

今までのようにただゴミを燃やすのではなく、燃える物を資源の一つとして利用することで運営経費を削減できる事業に変化してきているように思う。

岡崎 義樹

今回視察しました朝来市の南但クリーンセンターと豊岡市のクリーンパーク北但は、現在主流となっている兵庫県内のごみ処理施設の一つであり、昨年8月に視察したごみ処理施設の焼却形式が熔融炉でしたので、建設工事費も高額となる事から、熔融炉よりは安価なストーカ方式のごみ処理施設を視察してきました。

まず南但クリーンセンターでは、焼却炉で燃やす熱回収設備と回収された熱を利用して発電させているバイオマス設備とで構成されています。メタンガスを燃料としたバイオマス発電による施設運営費の軽減やメタン発酵槽より排出される残渣を再度熱回収設備に投入して再燃焼させ、最終処分の減量効率を高めていることな

ど、今後の検討の一つだと思えます。

また、メンテナンスに関しては、1炉なので、全停止をして行っています。その間は、ごみを2週間熱回収用ごみピットに溜めて点検していますが、現在の所は何も問題は無いそうです。みどり園の場合は焼却炉が2基あり、交互にメンテナンスをしているが、南但クリーンセンターのように、ごみの分別処理をすることで、ごみの資源化及び減量化が進むので、今後は2基から1基に変更する点についても検討してもいいかと思えます。

それと最終処分場の焼却灰に関しては、南但クリーンセンター及びクリーンパーク北但の両施設ともに、赤穂市の住友大阪セメント株式会社赤穂工場へセメントの原料として有効利用されており、南但クリーンセンターでのリサイクル率は、以前は21%台でしたが、施工後は30%ほどに向上しており、缶類・プラ容器類・ペットボトルなどの中間処理に加えて、焼却灰をセメント原料へ再利用した事でリサイクル率がアップしたのでしょう。みどり園で、現在リサイクル率は約17.8%である、今後はこのような再利用の方法についても検討するべきでしょう。

次にクリーンパーク北但ですが、焼却炉より回収された熱を蒸気に変えて発電させる蒸気タービンで発電しており、年間2,850kwは約4,800世帯が賄える、売電価格も約1億5,000万円だったので驚きました。

メンテナンスに関しては、平成28年8月より運転開始なので、まだ1年もたっていないことから点検等はおこなっていません。それとリサイクルセンター内の各処理部門では、手選別コンベアがT字型に設置されており、作業の効率化を図っているような形で設置されていました。

そして、両施設とも循環型社会形成推進交付金(通常は1/3)や高効率ごみ発電施設・高効率原燃料回収施設(1/2)、リサイクルセンター(1/3)を利用しているので、今後はそうした事を含めて、ごみ処理施設建設に向けて検討していくべきでしょう。

岩 崎 貞 典

今回、朝来市にある、南但クリーンセンター、豊岡市にある、クリーンパーク北但を視察いたしました。いずれの施設も新しく、快適な生活環境と自然を守るために、近隣市町と連携し完成に至ったそうです。竣工にいたるまでには

相当な苦勞があったようです。まず方針が決定した後、生活環境影響調査で、約1年、地元対応、計画、用地取得で約1年、造成工事で、約1年半、建設工事で、約2年と実に5年半もの年月がかかっています。そういうことを考えると、みどり園において残された期間を考えると、ゆっくり構えている暇はありません。早急に方針（用地）の決定、処理方式、計画の策定をしなければなりません。

南但クリーンセンター（人口規模約5, 6万人）は高効率原燃料回収施設の中で、熱回収設備（焼却設備）処理能力：43トン/日×1系列（24時間運転）、とバイオマス設備（メタン発酵設備）処理能力：36トン/日×1系列、（24時間運転）及び発電設備・発電能力：191kw×2基に区分されています。

クリーンパーク北但（人口規模約12万人）高効率ごみ発電施設で処理能力：142トン/日で、内訳は可燃ごみ・可燃残渣分128トン、汚泥分14トンでいずれの設備もストーカ炉方式で、確実に安定的な運転管理が行われています。

施設の特徴としては焼却排ガスから熱回収を行い、高効率ごみ発電を行い（出力：2, 850KW）発電した電力は施設内電力として有効に利用し、余剰電力は売電しているようです、しかしながら建設費用が高いつきそうです。昨年8月に視察した、エコパーク阿南と香川県東部溶融クリーンセンターはどちらも高温溶融処理施設を導入しており、中間処理に伴い発生する全てのものを再利用することにより、最終処分を行わないという資源循環システムを有する施設ではありますが、何しろ施設建設工事には莫大な費用がかかるということでなかなか難しい気がします。

総合的に考えると、南但クリーンセンターの特徴としては、

- 1) バイオガス（メタンガス）を燃料とする発電が可能となる。
- 2) 燃えやすいごみと燃えにくいごみを分けて処理することができるので、ごみ資源化、減量化が進めやすくなる。
- 3) 生ゴミ、紙類などをガス化させることにより焼却するごみの量を削減できる。
- 4) 高効率原燃料回収施設とすることにより交付金の交付率が高くなり、財政負担が軽減される。
- 5) 比較的費用が安価になる。
- 6) 工期が短くてすむ。

以上のような理由から南但クリーンセンターが今まで視察した中では比較的優秀な施設だと思いました。

## 村 井 公 平

### (南但クリーンセンター)

用地決定から供用開始まで、約10年かかっている。これから見て、みどり園代替焼却施設は早急に、建設に向けかからなければならないと思った。

焼却炉の型式は、株式会社タクマのストーカ炉で、ダイオキシンの発生を抑えるため24時間運転を行っている。この点は大いに参考にすべきと思った。

この施設の特徴は、バイオマス設備の設置で、生ごみを高温乾式設備でメタンガスを発酵させメタンガスによるガスエンジン発電機を稼働させ発電し売電している。利点としては、生ごみや紙類などをガス化させることにより、焼却するごみの量を削減できることと、バイオマス+焼却方式施設には、高効率原燃料回収施設とすることにより交付金が高くなる点である。懸念されるのは、メタンガス発生槽は密閉されているので何年耐用出来るか解らない。それと、全国でこの設備を設置したごみ焼却施設は4か所のみであり、判断が分かれるところであると思った。

### (クリーンパーク北但)

クリーンパーク北但の施設も、株式会社タクマのストーカ炉であるが、大きく異なるところは、どちらも発電設備を設置して発電しているが、こちらは、燃焼余熱を利用して水蒸気タービンによる発電をしているところである。

この施設について特記すべき点は、当初の予定地が、立木トラストや建設予定地の土地の共有化等により住民を巻き込み反対運動がおこり断念され、再度候補地を決定して進められたとのことである。これにも反対運動がおこり、都市計画決定を行い一部は強制執行されたとのことであり、用地取得に苦労され、用地も建設用地が約2,6haなのに敷地面積は約36,6haも購入されている。又、地元対応には特に気を配り運営協定の締結や建物を避難場所として開放するなどの配慮がなされている。今後、西脇市と多可町で取組む焼却施設建設についても地元協議には細心の注意を払って交渉すべきと思った。その他では、債務負担行為で運営費20年間で88億4,205円が計上されていた。それをすることのメリットは何か聞き漏らしたので確認したいと思っている。

### (統合所感)

上記でも提言しているが、今後、西脇市・多可町のごみ焼却施設建設に当たっては、次の点について調査研究が必要と感じた。

- 1) 発電設備を取り入れ、緊急時対応と併せ高効率ごみ発電施設に対する交付金を活用する。
- 2) ダイオキシンの発生を抑えるため24時間運転を行えるよう計画する。

- 3) ごみ焼却炉発注の際、焼却施設運営を一体としてプロポーザルを行うこと。
- 4) 先般の月曜会会派視察で灰溶融炉が提言されていたが、最近は、スラグ(溶かして残った物)の用途が限定され有効活用が出来ない事と、溶融コストが高く、水蒸気爆発のトラブルが多く溶融炉を廃止する動きもあり候補から外すべきと思う。